

としょぶらり

米子高专図書館情報センター報

ISSN 1344-5634

第 85 号

平成 20 年 7 月 10 日発行
米子工業高等専門学校
図書館情報センター



ブックハンティングによる新着図書コーナー

目次

『本を読む会』好評、開催中！… 1	
新任教員からの推薦図書 …… 2	
情報ネットコーナー …… 4	
学生図書委員のページ …… 5	
今年度の抱負	
学生図書委員一覧	
図書委員お勧めの本	
ブックハンティング	
文化セミナー報告	
古本市の案内	
新着図書の紹介 …… 6	
図書館統計 …… 7	
読書・エッセイコンクール	
応募要項 …… 8	

『本を読む会』好評、開催中！

幼い頃に絵本を読んでもらった記憶が残っていますか？ その記憶は、今、思い出せなくても心や頭の片隅には、ちゃんと覚えているものなのです。

最近では、「本を読む」という行為が、いろいろな場面で効果を挙げています。絵本を使つての「読書療法」という言葉もあり、実際に利用されているようです。この『本を読む会』は、そのような意味のあるものではありませんが、ただ、そこに集まる人たちと、1冊の本を通して、読んでくれる人の声や本の内容の楽しさ、時には、悲しみを共有しようという企画です。

とは言え、純粋に“本を読んでもらう楽しみ”を味わってもらえるだけでうれしいです。

『本を読む会』は、不定期で行っていて、放課後に図書館ロビーで開催しています。

図書館員は、絵本を読みます。参加してくれる学生達の中には、ちょっとしたお薦め本を持ってきてくれて、その内容や読んだ感想を話してくれます。

気に入った小説の一節を読んでもくださる先生や学生もいます。

この会で本を読んでもらう楽しさを再発見してみませんか？

図書館情報センター

本を読む会

どんな企画？

好きな本を人に紹介してみませんか？もちろんそれを聞くだけでも OK。

ちなみに・・・

今回は、『ウェン王子とトラ』をご紹介します。

※自由参加制です。人間を種あなげらも愛する動物たちを愛したかった僕トウ。

人と獣の境界を画かす存在となる王子とトラの絆を愛するみんなの絆。

毎月 1 回程度

月末金曜日、4 時 30 分より

図書館ロビーにて

30 分程度の予定です

新任教員からの推薦図書

今年は、電気情報工学科に乾先生、田中先生、物質工学科に谷藤先生、建築学科に玉井先生、松野先生、一般科目に大野先生と6人の新しい先生が本校に赴任されましたが、先生方には、それぞれとおきの本を推薦していただきました。これらの本は、今後、図書館にも常設する予定です。



出張かばんに入れたい本

電気情報工学科 乾 正博

着任前の企業では出張の機会が多く、特に新幹線を利用する場合は車中の時間を利用して読書に励んでいました。往路は出張先での仕事の準備や明るい車外の景観を楽しんだりすることが多かったのですが、復路では車窓も暗く、必ず読書の時間となりました。現在も帰省場所となった大阪の自宅は、家族の蔵書も含めて本棚に本が溢れています。このような事情もあり、つい最近までは新規の書籍購入は見合わせて、もっぱら公立の図書館を利用することにしていました。週末になると、図書館に向かい来週の出張予定に合わせて本を借り、必ず出張かばんの片隅に忍ばせます。小説、専門書、紀行などジャンルは多種多様でしたが、退屈しない本は自叙伝や伝記の類ではなかったでしょうか。松下幸之助の経歴は、あまりにも有名で興味半減ですが、**シャープの早川徳次、ソニーの井深大、ホンダの本田宗一郎などの自叙伝や伝記**については、退屈せずに読んだ記憶があります。身を立て、名を後世に残したとは言っても、もともと生身の人間、どんな境遇に生まれ、どのようにして世に出たか、虚構の世界の住人では、とうてい醸し出せない生命の躍動感と感動が、そこには満ちています。まして自叙伝ともなれば、筆者自身の人柄と思いが表れて読む者の心を引きつけて離しません。米子高専の図書館で蔵書検索しますと、理由は分かりませんが、一般図書と比較して、自叙伝の類の本が充実しているのです。中でも日本経済新聞社から昭和55年に出版された『私の履歴書』経済人シリーズ全18巻は五島慶太に始まり、総勢135人の自叙伝が掲載されています。なお図書館には、さらに同種の本が多数、あるようです。残念なのは、どの本も装丁が新書同様に美しく、貸し出し記録がほとんど無いことです。着任後に2冊借りましたが、購入が昭和61年にもかかわらず、私が貸し出し者の第一号でした。学生諸君には、この機会に手に取っていただき、愛読されることをお勧めします。



勉強がすすむ本

電気情報工学科 田中 博美

私が皆さんと同じ年の頃、大変影響を受けた「勉強法」についての一冊を紹介したいと思います。学生時代、勉強や部活に追われる雑多な日々のなか「どうやったら効果的に勉強できるのか」という問いに対して、当時の（未熟な）私は明確な答えを持ち合わせていませんでした。今から振り返れば私の勉強への取り組み方は“非合理・非効率”そのものでした。そのため、自分の勉強のやり方について、いつまで経っても自信を持てず、しばしば疑問や不安を抱いたものです。そのような中、私はある本と出会いました。タイトルは『開成流勉強術』（福井一成著、ワニブックス）です。本のジャンルとしては（いわゆる）ハウツー本の類ですが、勉強のノウハウ以外にも、読むと自然と勉強意欲が湧いてくる不思議な一冊でした。この本では、開成高校の特異な勉強方法と学生達の驚くばかりの勉強ぶりが紹介されています。読み進めるうちにトップ校の「トップたる所以（ゆえん）」を垣間見ることができます。例えば、中間・期末試験については、時間が足りなくて試験までに勉強が終わらなかった事項は“試験が終わってから”勉強していますし、また問題を解く際にはすべての答えに徹底して“理由づけ”を行い思考力を伸ばすといった、単なる“詰め込み型教育”とは一線を画すアプローチ方法をとっています。その他にも、読んでいて圧倒される内容が多々ありました。開成高生の強さの秘密は、結局のところ「工夫」と「努力」、そしてそれらを根底で支える「勉強にかける比類なき情熱」によるところが大きいことが本書から良くわかります。「勉強にやる気が起きない」という人は是非一度、本書を読んで刺激を受けてみられることをお勧めします。





きっかけになった本

物質工学科 谷藤 尚貴

学生時代に自分の専門である有機化学研究の魅力にとりつかれて以降、少ない知識量を克服せんと自身が学ぶべき分野の専門書を自分のアルバイト代を貯めて購入したり、買えない専門書は図書館に籠って読みふける生活が続くうちに、いつからか一般書籍を読む機会が少なくなり現在に至っています。それ以前の高校時代は、丁度ベルリンの壁の崩壊やソビエト連邦の解体等世界情勢が目まぐるしく変化していた時期でした。その時の自分は今世界でいったい何が起きているのか？日本に住んでいると何も心配無く平和に生活出来るけれど、このままで良いのだろうか？という疑問を強く持っていて、世界情勢に対する自身の意見を明確に持ちたいという考えから、政治経済に関する書籍を熱心に読んだ記憶があります。

再び大学入学後の話に戻りますが、研究を自分の仕事にしたいと決心するきっかけになった本が数冊あります。その中で米子に來てからふと思い出した『**ケネディを大統領にした微生物**』を今回お薦めしたいと思います。様々な微生物に関するエピソードが4、5ページずつ簡潔にまとめられている短編集で、読み易い内容の本です。その中で自分が最も印象に残っているのは「イスラエルの建国者」という章です。現在の化学業界で日常的に用いられている有機化合物アセトンの大量合成を実現した細菌の発見がイスラエル建国のきっかけを作り、発見した研究者は初代大統領になったという話で、今日バイオテクノロジーとして知られる発酵産業の原点となる研究の紹介でもあります。現在の業界でこのレベルの研究成果を創り出すことは相当難しいですが、今回この本を読み直していて、分野や立場は違っていても世界に役立つ研究を創造し実現できる人間であり続けたいと改めて決意することができました。学生の皆さんもこれから様々な本を読んで、将来の夢や希望を見つけるきっかけを見つけたいと思います。



オヤジ旅のすすめ

建築学科 玉井 孝幸

着任早々、図書委員の先生から「『としょぶらり』の原稿をよろしく」と言われてしまい、困ってしまっただ。実は私、プライベートでほとんど活字を読まな

い。そうは言っても、研究なんぞでは、文献・論文・古書など読み漁っている。最初は、古書について書こうかとも思ったが、そんな本を推薦してもらってもうれしくないだろうし、買おうとしても、ほとんど入手できないのも事実である。いろいろ悩んだあげく、やっぱり本屋へ行こうと思い立ち、うろうろ、ばらばら。で、眼にとまったものが、『**もいちど修学旅行をしてみたいと思ったのだ**』である。それも帯に、「高校生にはわかるまい、家族旅行じゃない、夫婦旅行でもない、大観光地オヤジ旅」とあるではないか。高専生に対して挑戦的である。この本は、修学旅行でよく行く場所に、オヤジの視点でもう一度行ってみようという、ばかばかしい企画であるが、はまってしまった。高校を卒業後、約30年を経過したオヤジ3人の旅行記であるが、やたら知識なのかウンチクなのか雑学なのか区別のつきにくい会話（文章）がつづく。たぶん今の高専生ではあまりにばかばかしい内容かもしれないが、私のように卒業後20年も経つと、「う～ん、わかるな～」と思う内容なのである。

私も実は、ここ数年こんな旅をしている。一般の人はまったく見向きもされない、古いコンクリート構造物を調べ、その建設経緯や時代背景にロマンを感じ、ウンチクともつかない知識を頭に、有名な観光地でも全く異なった視点で楽しんでいる。この本を読んで、こんな旅を「オヤジ旅」というのかと理解したのと同時に、そろそろ「オヤジ」の門をくぐったのかと実感してしまった。



「きっかけ」

建築学科 松野 一成

「としょぶらり」の推薦図書の原稿依頼に対し、技術者としての心構え等に関する書籍は他の先生方が以前に紹介されていると思いますので、私は「きっかけ」を推薦しようと思います。現在、若年層の活字離れが問題視されているように、本を読まない若者が急増しております。私は特段読書好きというわけではありませんが、小学生のころからそれなりに読書しております。小中学校の先生方から薦められたから読書を始めたということもありますが、それだけでは長続きはしません。そのために、皆さんに「きっかけ」を薦めたいと思います。小中学生のころは推理小説を読みました。その「きっかけ」はテレビドラマでした。これは「江戸川乱歩」の子供向け探偵小説中に登場した探偵団をモデルにしたもので、子供のみで構成された探偵「明智小五郎」を補佐し、「怪人20面相」を追い

新任教員からの推薦図書

詰めるというテレビドラマでした（かなり前になりますのではっきり記憶されておりません）。この原作が小学校の図書室にあることを知ると、子供向けの小説だけでなく、“江戸川乱歩”作の小説を読み漁りました。その後は「金田一耕助」が活躍する“横溝正史”の小説を読み、現在では“赤川次郎”、“山村美紗”の推理小説を読んでおります。出張中の新幹線の車中は絶好の読書場となっております。有名なところでは映画をきっかけに“宮部みゆき”の『模倣犯』を読んだりました。

私は呉高専の卒業生ですが、高専生の時には歴史書にはまりました。この「きっかけ」はNHKの人形劇でした。これは『三国志演義』をもとに人形劇に適するよう脚色されたものでしたが、中国の歴史とくに三国時代に興味を抱かせるに十分な内容でした。加えて『三国志』を題材にした漫画、テレビアニメ等々から影響を受け、この時代についてより詳しく知りたいと思い、歴史小説『三国志演義』を読みました。今でも歴史書には興味があり、最近では『宮本武蔵』を読みました。これもNHK大河ドラマの影響でした。このように「きっかけ」さえあれば読書の習慣が身につくと思います。わずかでも興味を持ったことのその先を知ろうとすることが、読書だけでなく、学問に対しても通ずるものだと思います。まずは「きっかけ」を探すことに努力をしてみたいかたがでしょう。



面白くない本

一般科目 大野 政人

今回「としょぶらり」に新任教員からの推薦図書

を載せるということで原稿の依頼を受けた。このような依頼が来た場合、普通は面白い本や感動した本、自分の人生を変えるきっかけになった本などを勧めます。しかし、私は20歳位まで全くと言っていいほど本を読む習慣がなかったし、本を読んで感動した経験がほとんどないので、何の本を勧めるべきか悩んでしまう。おそらく、学生の中にも本を読む習慣がない人がいると思うし、そういった学生の気持ちがよくわかる。なので、今回は、本を読むことに興味がないけれども、たまたま、このページを読んでしまった人に1冊の本を紹介しようと思う。『仕事ができる人、魅力がある人の悪魔の文章術』（樋口裕一、三笠書房）。はじめに断っておくが、この本は面白くない。でも、役に立つ本である。みなさんも、受験、就職試験、愛の告白?などを通じて文章を書く（メールを打つ）機会があると思う。しかし、どれだけ自分が素晴らしい考えや強い思いを持っていたとしても、それが文章を通じて100%相手の心に伝わることはまずない。そればかりか、自分の意に反して相手を失望させたり、怒らせたり、悲しませたりすることさえあり得る。逆に、文章を読んだ相手の心を想像し、見せたい自分を上手に演出することができれば、自分が持っている想いや能力以上のものを相手の心に残すことができる。このテクニックは日常の会話にも応用することができると思う。詳細については本書や同類の本を参考にしてほしい。もう1点。よく、文章を書くのが苦手という学生がいるが、遠足の作文や読書感想文を書く能力とは大きく異なるのでご安心を。最後に「面白くない本」というタイトルを見て、思わず読んでしまった人、これも読む人の心をくすぐる1つのテクニックなんですよ。

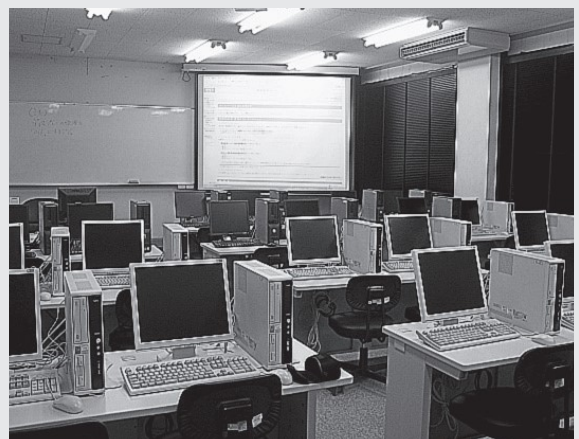
情報教育・情報ネットコーナー

第3 端末室でインターネットが使えます

インターネットルームが、新しく第3 端末室として生まれ変わりました。

学生の皆さんは、旧インターネットルームと同じように第3 端末室に設置されているパソコンを用いてインターネットに接続することが出来ます。

また、第3 端末室には教師用1台を含め27台のパソコン、プロジェクター、オーバーヘッドカメラ等が設置されていますので、少人数制の授業等も行うことが出来るようになりました。



今年度の抱負

図書委員長 4C 野口 太郎

本を読むことが好きですか？

ちなみに私は大好きです。私にとって本を読むことは人生、思想、感情、知識を体験すること。特に自分が「良い」と感じた本に出会えた時には人格が明らかに変化したとさえ感じます。

本が好きだと言う人も、嫌いだと言う人も、「良い」と思える本に出会えますように。

少しでもそのお手伝いが出来たならば図書委員長としてこれ以上の喜びはありません。

平成20年度学生図書委員一覧

学年	M	E	D	C	A
1	三嶋 啓太	勝部 拓磨	定常 敬介	田中 博之	廣谷 慶太
2	近藤 洋	近江 博之	門永 健	湯汲 航平	八浦 祥平
3	種田 大剛	川上 太知	小松 紀由	藤沼 輝	村上 翔吾
4	橋浦 佑基	△戸田隆太郎	山根 祐紀	○野口 太郎	▲山本 順也
5	松田 愛生	関 さゆり	尾田 崇	笹間美由希	山田 沙織

○印：委員長 △印：副委員長 ▲印：副委員長兼書記

図書委員お勧めの本

『魔法遣いに大切なこと』 3D 小松 紀由

僕がお勧めする本は『魔法遣いに大切なこと』というライトノベルです。

この本は、日本が舞台なのですが「魔法遣い」という職業が公務員の職種として存在するのです。ただし、魔法が遣えるかどうかは生まれたとき決まっています。この職業に就いた人は街に事務所を構えて魔法局から紹介された依頼者の依頼に対応するのが仕事です。

そして話は、主人公「菊池ユメ」がその研修を受けるため田舎から東京に出てきたところから始まります。ユメは研修担当官の小山田という魔法遣いのもとで一ヶ月研修を受けることとなり、そこでその事務所に来た依頼を小山田の助手として手伝うのが研修の内容です。研修をこなしていく中で少しずつ成長していくユメ。果たして、研修はちゃんとこなせるのか？

このようなお話です。どうか読んでみてください。

『そして誰もいなくなった』 4D 山根 祐紀

イギリスのデヴォン州インディアン島に、年齢も職業も異なった10人の男女が招かれる。でも、招待状の

差出人で島の主のU・N・オーエンは姿を現さないまま。やがて、その招待状は偽物であることがわかったが、10人は島から出ることができなくなり、完全な孤立状態となってしまったのだ。

世界的に有名なアガサ・クリステイによる推理小説の傑作のひとつ。日本では早川書房から出版されている。

推理小説では珍しく探偵といった職の者は出ず、読者に対して物語中に事件を解決に導くヒントというものを与えない。読者に解かせるつもりなど全くないのだ。そもそも「誰もいなくなる」のだから…。

最初は随分とふざけた内容だと思ったが、話が進むと実に面白くなる、あまり長くもなく、暇つぶしにも使えるお薦めの一冊。

ブックハンティング

5月15日に本の学校でブックハンティングが行われました。約15人が参加し、合計約10万円分の本を購入しました。購入した書籍の一部を次ページに記載し、紹介しておきます。興味のある本がありましたら図書館入り口の棚にまとめておいてありますのでどうぞ、借りて、そして、読んでください。



ブックハンティング中の図書委員

第1回文化セミナーの報告

4A 山本 順也

5月17日、公会堂中ホールにて、文化セミナーが開催されました。講師は建築学科の和田先生です。

今回の文化セミナー、当初は建築学科の田口先生による「まちを元気にする景観づくり」といった内容の予定でした。田口先生の講演も大変興味深いテーマだったのですが、急に田口先生が講演できなくなり、代わりに和田先生に講演をしていただくことになりました。

した。講演は「出雲大社の変遷 変わるものと変わらぬもの」という演題です。出雲大社は今年、ちょうど60年ぶりの遷宮を行っており、テレビ・新聞等で聞いたことのある方も多いかと思います。

講演の内容は、主に古代から現代にかけて出雲大社はどう変化してきたかというものでした。現在の出雲大社は8丈(24m)あり、これは江戸時代に建てられたものです。では、太古の出雲大社はどうかだったかというのと、なんと32丈(96m)の高さがあったといえます。十世紀末に記された貴族の教科書『口遊(くちずさみ)』という資料に当時の高層建築TOP3のことが書かれています。それには「雲太、和二、京三」とあり、「雲太」は出雲大社、「和二」は東大寺大仏殿、「京三」は京都御所の大極殿のことを指します。その頃の出雲大社は、高さ15丈(45m)の東大寺大仏殿より大きかったことを伝えています。平成12年には出雲大社の境内で巨大な3本1組の柱が見つかり、ニュースにもなりました。他にも、江戸時代や明治時代の出雲大社の遷宮について等の話もされました。出雲大社が過去に30回以上も遷宮を繰り返していたことには驚きました。遷宮の際に本殿は場所を変えており、昔の本殿と現在の位置では少し違っているそうです。図や写真、資料などもたくさん使っており、一般の方でも分かりやすい説明だったと思います。文化セミナーで

の講演だと、授業とはまた違った感じの雰囲気です。聞いて面白かったです。

今年は6月と10月、11月(8ページ参照)にも文化セミナーを行います。一般向けの内容なので自分の専門の人はもちろん、そうでない人でも楽しめると思います。皆様の参加をお待ちしております。



古本市の案内

図書委員会では今年も高専祭で古本市を行います。そのためにすでに古本を集めはじめています。高専祭に来る人が興味を持ちそうで、もし寄贈しても良いという本がありましたら、4C 野口(図書委員長)または図書館までご連絡ください。

新着図書の紹介

(学生によるブックハンティングから)

What is modern design?

Lakshmi Bhaskaran著/ビー・エヌ・エヌ新社
VectorWorks 2008建築CADベーシックマスター
山田幸司著/秀和システム

くろかの

夏緑著/ホビージャパン

ダブル・キャスト(上・下)

高畑京一郎著/メディアワークス

ミステリクロノ(1・2・3)

久住四季著/メディアワークス

NHKによろこそ!

滝本竜彦著/角川書店

きみにしか聞こえない: Calling you

乙一著/角川書店

嘘つきアーニャの真っ赤な真実

米原万里著/角川書店

クレイドゥ・ザ・スカイ

森博嗣著/中央公論新社

ひぐらしのなく頃に第1話: 鬼隠し編(上・下)

竜騎士07著/講談社

植物名の由来 第2版

中村浩著/東京書籍

狐火の家

貴志祐介著/角川書店

知っておきたいレイアウトデザインの基本

内村光一著/エムディエヌコーポレーション

レクイエムの歴史: 死と音楽との対話

井上太郎著/平凡社

ふしぎな生きものカビ・キノコ: 菌学入門

ニコラス・マネー著/築地書館

反社会学講座

オロ・マツァリーノ著/イースト・プレス

桃山ビート・ドライブ

天野純希著/集英社

住宅の射程

磯崎 新 [ほか] 著/TOTO出版

図書館統計

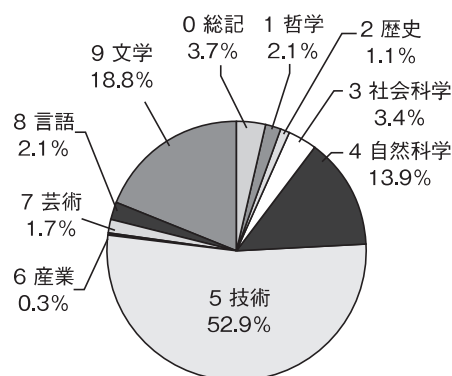
1. 平成19年度利用状況

- (1) 開館日数240日(時間内207日・時間外163日)
- (2) 入館者数・貸出者数・貸出冊数

区分	学生	職員	校外者	合計
学生・教職員数	1,098人	126人	10人	1,234人
入館者数	45,429人		242人	45,671人
図書貸出者数	5,120人	461人	104人	5,685人
図書貸出冊数	9,538冊	1,597冊	264冊	11,399冊

2. NDC分類別貸出冊数・貸出率

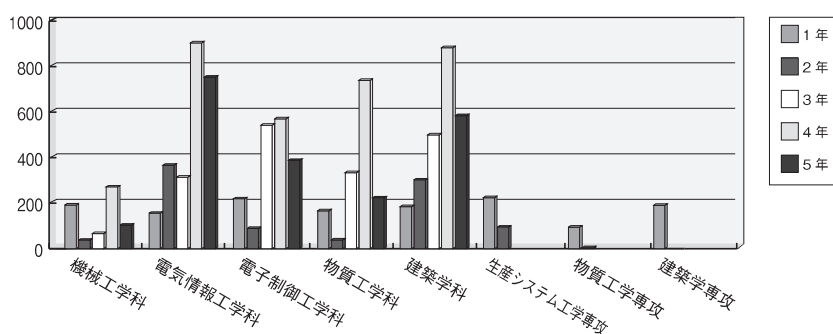
分類	貸出冊数	順位	分類	貸出率(%)
0 総記	427	1位	5 技術	52.9%
1 哲学	236	2位	9 文学	18.8%
2 歴史	129	3位	4 自然科学	13.9%
3 社会科学	383	4位	0 総記	3.7%
4 自然科学	1,581	5位	3 社会科学	3.4%
5 技術	6,028	6位	8 言語	2.1%
6 産業	33	6位	1 哲学	2.1%
7 芸術	197	8位	7 芸術	1.7%
8 言語	240	9位	2 歴史	1.1%
9 文学	2,145	10位	6 産業	0.3%
合計	11,399	合計		100.0%



3. 平成19年度 学生利用状況(学年・学科別貸出冊数)

本科・専攻科

学科等 学年	本科					専攻科			合計
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	生産システム工学専攻	物質工学専攻	建築学専攻	
1年	192	156	219	166	184	224	94	190	1,425
2年	37	366	89	38	302	95	4	1	932
3年	66	314	543	334	500				1,757
4年	271	905	571	740	884				3,371
5年	103	754	388	223	585				2,053
合計	669	2,495	1,810	1,501	2,455	319	98	191	9,538



4. 平成19年度学生利用冊数ベスト3

順位	貸出回数	書名	著者	出版社
1位	23	図書館戦争	有川 浩	メディアワークス
2位	17	ゼロから学ぶデジタル論理回路	秋田 純一	講談社
2位	17	見方・かき方オペアンプ回路	岩澤 孝治	オーム社
2位	17	読むだけで力がつくオペアンプ基礎回路再入門	岡山 努	日刊工業新聞社
2位	17	図解はじめて学ぶ電子回路	谷本 正幸	ナツメ社
2位	17	図書館危機	有川 浩	メディアワークス
3位	16	よくわかる最新電子回路の基本と仕組み	国島 保治	秀和システム
3位	16	OPアンプによる実用回路設計	馬場清太郎	CQ出版
3位	16	リニアICによるオペアンプの基本と応用	角田 秀夫	東京電機大学出版局

平成20年度（35回）

校内読書・エッセイコンクール応募要項

米子高専の学生であれば「読書感想文の部」「エッセイの部」いずれにも応募できます。

☆読書感想文の部☆

推薦図書

武良布枝『ゲゲゲの女房』（実業之日本社）
 夏目漱石『こころ』（岩波文庫ほか）
 森 絵都『永遠の出口』（集英社文庫）
 星 新一『未来いそつぷ』（新潮文庫）
 宮尾登美子『天璋院篤姫』（講談社文庫）
 マイケル・モーパーゴ著 佐藤見果夢訳『兵士ピースフル』（評論社）※
 ロジャー・ペイン著 宮本貞雄 訳『オデッセイ号航海記：クジラからのメッセージ』（角川学芸出版）※

※第54回青少年読書感想文コンクール課題図書

☆エッセイの部☆

以下の項目から一つ選んで、日頃自分が考えたり思ったりしていることを自由な発想で書いてみて下さい。

・心の旅 ・絆 ・ものづくり ・自然と人間 ・世界と日本 ・オリンピック
 ・命 ・スポーツと私 ・宇宙 ・未来 ・忘れられない場面

読書感想文、エッセイともこれ以外の項目でもかまいません。

実施期間：夏休み

字 数：両部門とも縦書き原稿用紙（400字詰）5枚以内。自筆。

締 切：9月1日（月）

提出先：各クラス図書委員が集めて担任へ（専攻科生は直接図書館まで）

審 査：第1次～9月5日（金）：クラス担任が部門ごとに3編以内を選定。

：第2次～9月10日（水）：図書館情報センターにて審査。

：第3次～9月16日（火）：図書館情報センター運営委員会において最優秀・優秀作品を決定。

審査委員：図書館情報センター長、副センター長、センター長補、図書館情報センター運営委員、国語科教員

表 彰：部門ごとに、最優秀賞1編、優秀賞2編、佳作数編

賞状および副賞として図書券：最優秀賞 5,000円券、優秀賞 3,000円券、佳作 1,500円券

表彰式：11月中

作品提示：優秀作品は『としょぶらり』誌（86号）に掲載

☆1～3年のうち、読書感想文の優秀作品は全国学校図書館協議会および毎日新聞社主催『第54回青少年読書感想文コンクール』の地方審査への応募も兼ねています。

米子高専文化セミナー

～とっとり県民カレッジ連携講座・財米子市教育文化事業団連携講座～

平成20年10月25日（土）14:00～16:00

「空気や水の流れのふしぎ」

（機械工学科 早水 庸隆）

平成20年11月22日（土）14:00～16:00

「環境汚染と防止技術」

（物質工学科 池田 彰）

場所／米子市公会堂 2階 集会室 対象／一般 定員／40人 参加料／無料

問い合わせ先／米子高専 図書館情報センター（電話 0859-24-5028）、米子市公会堂（電話 0859-22-3236）

主催：米子工業高等専門学校図書館情報センター 共催：財団法人 米子市教育文化事業団 協賛：財団法人 鳥取県産業振興機構